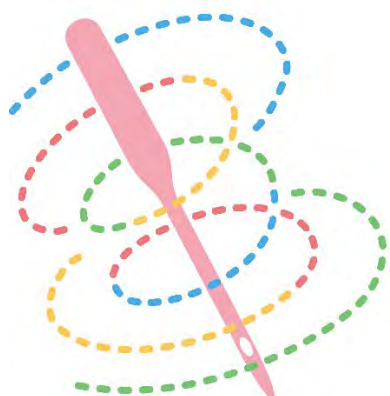


取扱説明書

(型式 MM-10 II)



子育てに
ちょうどいい
ミシン

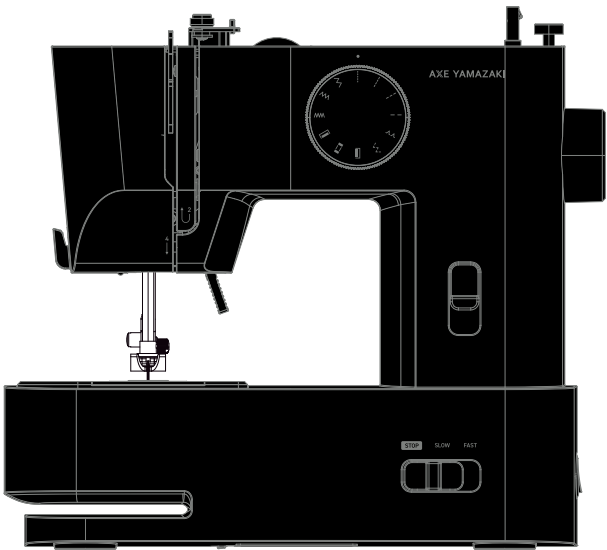
型式が MM-10（旧モデル）をご使用の方は
下記リンクからご覧くださいませ

<https://www.axeyamazaki.co.jp/support/manual/img-pdf/manual-mm-10.pdf>

お使いの型式はミシン本体の裏面に記載されているラベルをご確認ください

取扱説明書

型式：MM-10 II



もくじ

安全上のご注意	1	縫ってみる	14
取り扱いのお願い	2	返し縫い	14
各部の名まえ	3	糸調子の合わせかた	15
付属品	3	縫い方向の変えかた	16
電源を入れる	4	厚地や段差を縫う	16
フットスイッチ	5	糸、針、生地の関係	17
スマホスタンド / 針ガード	6	まつり縫い（裾上げ）	17
模様選択	7	フリーアーム	18
スピード調節ツマミ	7	ボタンホール縫い	18
押え上げレバー	8	● ボタンホールの左右縫い目のバランス調整	
押えの取り外しかた・取り付けかた	8	お手入れ	21
押えホルダーの取り外しかた・取り付けかた	9	● 針の交換	
ボビンの取り出しかた	9	● 正しい針の選びかた	
下糸の準備	10	● カマのそうじ	
● 下糸の巻きかた		困ったときは	25
● 下糸のセット		サービス工場のご案内	26
上糸の準備	12	仕様	26
● 上糸のかけかた		修理・保証サービス	終
● 下糸の引き上げかた		保証書	終

このミシンを安全にご使用いただくために、『取扱説明書』をご使用前に必ずお読みください。
また、『取扱説明書』はお手元に保管し、末永くご使用ください。

安全上のご注意

ご使用の前に「取扱説明書」を必ずお読みになり、正しく安全にご使用ください。

この取扱説明書及び商品には、安全にお使いいただくためにいろいろな表示をしています。以下の表示を無視して誤った取り扱いをすることにより生じる内容を、次のように区分しています。

以下の内容をよく理解してから本文をお読みになり、記載事項をお守りください。

- このミシンは日本国内向け家庭用です。For use in JAPAN only. 国外での使用及び職業用としてご使用になった場合の保証はできません。
- 仕様及び外観は品質改善のため、予告なく変更することがあることをご了承ください。
- 取扱説明書の内容は予告なく変更することがありますのでご了承ください。
- 取扱説明書の内容を許可なく無断で複製をすることは禁じられておりますのでご了承ください。

 警告	この表示を無視して誤った使いかたを すると、人が死亡または重傷を負う 恐れがある内容を示しています。	 注意	この表示を無視して誤った使いかたを すると、人がケガをしたり財産に損害が 生じる恐れがある内容を示しています。
--	--	---	---

この説明書で使用している絵文字の意味は次の通りです。

危険性を促す記号	行為を「禁止」する記号	行為を「指示」する記号
   火災の原因になります 感電の危険性があります ケガの危険性があります	  禁止 分解禁止	  必ずすること 電源プラグを抜く

 警告	  死亡、火災、感電の恐れがあります。
火災・感電の原因となります。 一般家庭用電源 AC100V の 電源以外では絶対に使用 しないでください。 AC100V 50/60Hz コードを傷つけたり、 折り曲げ、結び、ねじれ、 加工はしないでください。 傷付いたり、溶けて線が むき出しになったコードを 使わないでください。 * コードが傷付いた場合は 販売店・サービスセンター にて純正部品をお買い求め ください。 コードに机や椅子の 脚など、重いものを 載せないでください。 延長コードや分岐コンセントを 使用したタコ足配線はしない でください。	火災・感電の原因となります。 販売店・サービスセンターに ご連絡ください。 ミシンの中に水や異物が 入ったときは、電源を切り、 AC アダプターを抜いて ください。 発煙や異臭、異音などの 異常が発生したら電源を 切り、AC アダプターを 抜いてください。 落としたり正常に 作動しないときは AC アダプターを 抜いてください。 AC アダプターをコンセント (家庭用電源) にしっかり 差し込んでください。 付属の AC アダプターは このミシン専用です。 他の用途に使用したり、 付属品以外の AC アダプターを 使用しないでください。 ミシンの中に電池を長期間 入れっぱなしにしないでください。 電池同士で通電し腐食します。



注意



ケガや財産に損害が生じる恐れがあります。



- 電源を切るときは、AC アダプターを持ってコンセントを抜き差ししてください。
コードの断線や接触不良による感電の原因になります。
- ミシンの操作中はマシンから目を離さないでください。
- 交換した針を放置しないでください。
- お子様が使用するときや、お子様の近くで使用するときは特に安全に注意し、お子様から目を離さないでください。
- 針を交換するときは、AC アダプター及び電池を抜いてください。
作業途中にマシンが動く恐れがありケガの原因になります。
- 屋外や直射日光のあたる場所、高温多湿な環境、寒い場所での使用は避けてください。
部品の劣化や変形、正常に作動しないことがあります。



- コードは巻き付けしないでください。
コードの断線や接触不良による感電の原因になります。
- 濡れた手でACアダプターを抜き差ししないでください。
感電の原因になります。



- ミシンを使用しないときやマシンから離れたり使用を中断するときはACアダプター及び電池を抜いてください。
絶縁劣化、漏電などによる火災の原因になる恐れがあります。



- 不安定な場所に置かないでください。
- 動作中に、はずみ車・針・天びんに手を触れないでください。
手や指が挟まる、針が刺さるなどケガの原因になります。



- 曲がった針は使わないでください。
針が折れ、ケガの原因になります。
- すべり板を開けたままミシンを操作しないでください。
縫製中に生地を無理に引っ張ったり、押しつけないでください。
手や指が挟まる、針が刺さるなどケガの原因になります。



- 幼児の手が届かない場所に保管してください。
針や押えなどの突起でケガの原因になる恐れがあります。
- 糸をセットするときやミシンの手入れを行うときはACアダプター及び電池を抜いてください。
作業途中にマシンが動く恐れがありケガの原因になります。



- 電池を誤使用すると発熱・破裂・液漏れ・発火の恐れがあります。
以下に注意してください。
- 1. 二次電池（充電式電池）またはマンガン電池は、絶対に使用しないでください。
- 2. 古い電池と新しい電池、いろいろな種類の電池を混ぜて使用しないでください。
- 3. +-(プラスマイナス)を正しくセットしてください。
- 4. 使用後は、必ず電源スイッチを切り、電池を外してください。
- 5. ショートさせたり充電・分解・加熱・火の中に入れたりしないでください。

- 6. 万一、電池から漏れた液が目に入ったときはすぐに大量の水で洗い、医師に相談してください。
皮膚や服に付いたときは水で洗ってください。
- 7. 破棄するときは、自治体の廃棄物処理の指示に従ってください。

取り扱いのお願い

永くお使いいただくため、次のことを守ってください。

縫製以外や業務用、職業用の目的には、ご使用にならないでください。極度の部品摩耗や破損につながります。



注意



ケガやミシンの故障が発生する恐れがあります。

■ 曲がった針を使わない。

曲がった針を使うと、次のようなケガや部品の損傷につながります。

- 針穴に刺さらず、折れた針が飛び、ケガをする恐れがあります。
- 押えや針板に傷を付け、糸調子が合わなくなります。

■ このミシンで縫えないもの。

次のものはこのミシンでは縫えません。針やモーターなどに過度の負担をかけ、故障の原因になるだけでなく、針折れなどの原因にもなります。

- 木、プラスチック、金属などの板・ぬれた布、粗い網（漁網など）・はずみ車を手で回しても、針が刺さりにくい生地・極端な段差

■ 保管時の結露（つゆつき）について。

寒いところから、暖かい室内に持ち込んだときや、冬の朝など暖房を入れたばかりの部屋では、本体の表面や内部に結露（つゆつき）が起こることがあります。結露がなくなるまで、ACアダプターをコンセント（家庭用電源）に接続しないでください。そのままお使いになると感電や誤動作・故障の原因になります。

■ 直射日光・熱気をさける。

直射日光が当たる場所や熱器具の近くには置かないでください。プラスチックのカバー部分や内部部品に変色・変形や部品劣化などの悪い影響を与えますのでご注意ください。

■ 糸絡みのとき、糸・生地を引っ張らない、無理にはずみ車を回さない。

針や部品を破損します。

■ ミシン表面のお手入れ。

プラスチック部分の汚れがひどいときは、中性洗剤をぬるま湯に薄め、布に浸してかたく絞り、乾いた布で仕上げてください。

- * ベンジン・シンナー・ワックスなどで拭かないでください。

■ 説明書で指定された以外の分解・改造はしない。

ネジ類の締め忘れやゆるみにより、針折れや部品の破損につながります。

■ 使用した後、上糸を外す。

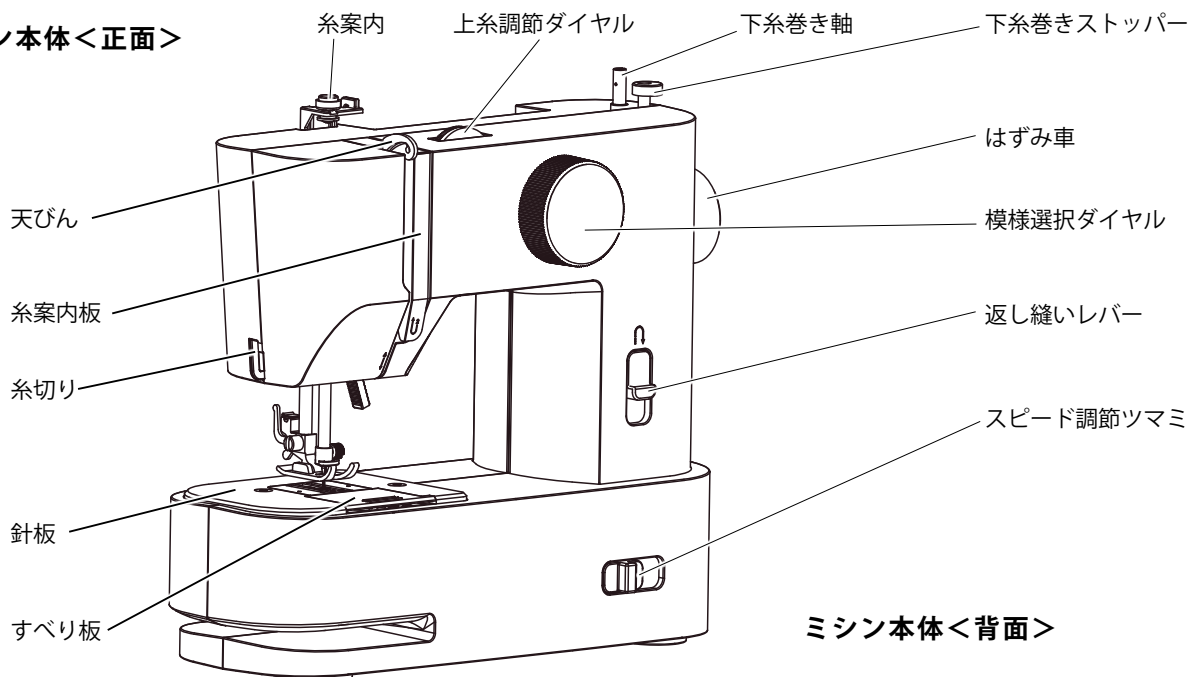
糸をかけたまま収納すると、糸たて棒を破損します。上糸は外してください。

■ 長期間ご使用にならないとき。

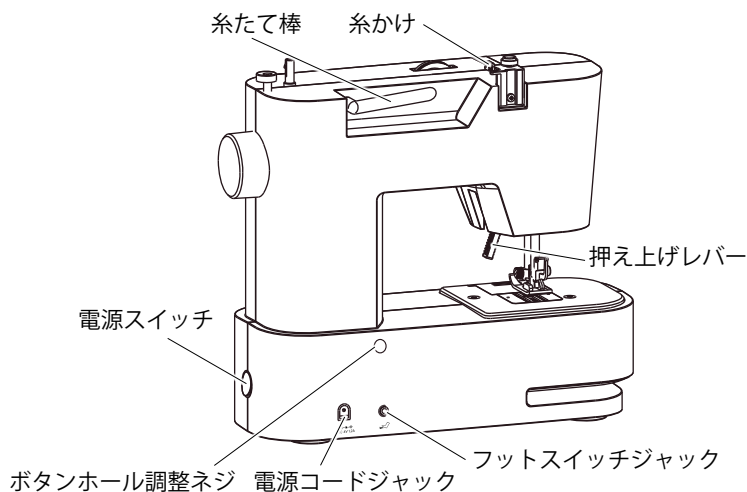
長期間ご使用にならないと、油の乾燥・固着などで機能に支障をきたす場合があります。時々、ミシンを動かしてください。油の固着を防ぐことができます。

各部の名まえ

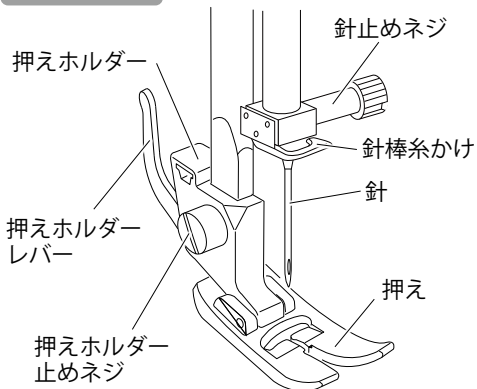
ミシン本体<正面>



ミシン本体<背面>



針の周辺

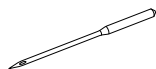


付属品

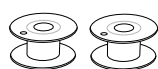
※必ず専用の付属品をご使用ください。

※付属品は発泡スチロールに収納しています。

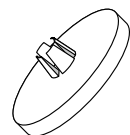
針 1 本
(HA × 1 #14)



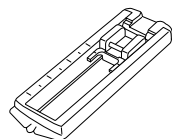
家庭用プラスチック
ボビン 2 個
(高さ 11.5mm × 直径 20.5mm)



糸通し器



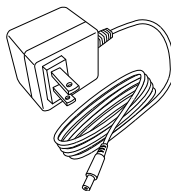
糸こま押え



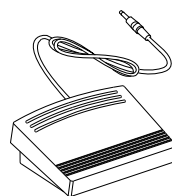
ボタンホール押え



針板ドライバー
(針止めネジ・
押えホルダー
止めネジ用)



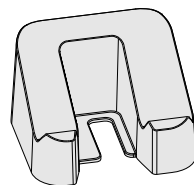
AC アダプター



フットスイッチ



QR コード
シール



スマホスタンド/
針ガード

針ガードとお持ちのスマートフォンの
置き台としてお使いいただけます。

電源を入れる



警告



- ・電源コードはACアダプターを持って抜く。
コードのみを引っ張ると、ACアダプターのコード部分が破損し、火災、感電、機器故障の原因になります。



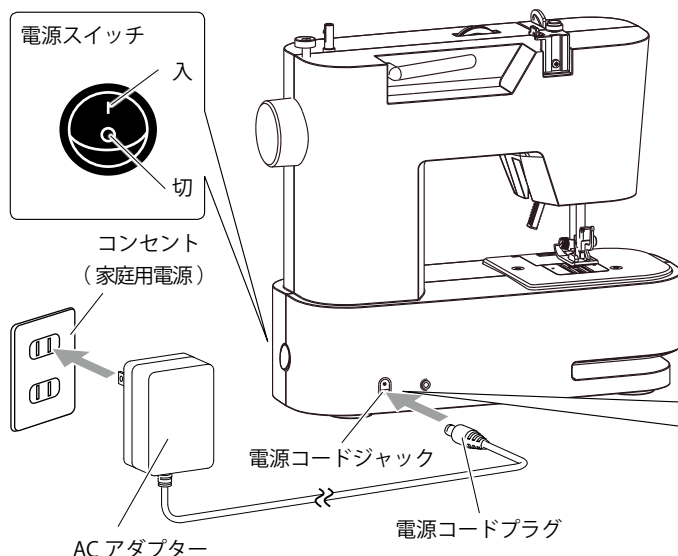
注意



- ・電源スイッチを『OFF』にする。
突然動くとケガをする恐れがあります。
- ・電池の向きを正確に入れる。
電池の破裂、液漏れにつながります。
- ・使用後は、必ず電源スイッチ (OFF) にして、電池を外す。
電池の破裂、液漏れにつながります。
- ・はずみ車や針周辺に手や物を置かない。
- ・周囲に物を置かない。
- ・水平なところにミシンを設置する。
- ・作業スペースを確保する。

●ACアダプター

<ミシン背面側>



【1】『電源コードプラグ』を『電源コードジャック』に確実に差し込みます。

【2】『ACアダプター』を『コンセント (家庭用電源)』に、確実に差し込みます。

【3】『電源スイッチ』を『I』側に押し、電源を ON にします。

ご注意ください

ACアダプター・フットスイッチのジャックがミシン背面にあり、ミシンを背面側に倒したり傾けると破損する恐れがあります。

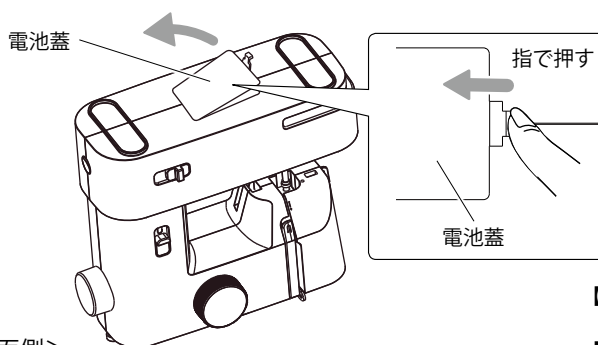
電源コード ジャック フットスイッチ ジャック



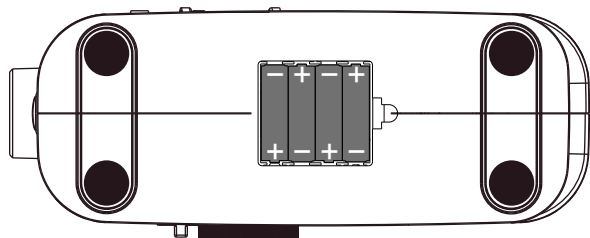
DC 6V 2.0A



●電池 (単3形アルカリ電池×4本)



<ミシン底面側>



単3形アルカリ電池使用
縫製可能持続時間の目安

デニム布 2枚重ね：連続運転時 約1時間

※生地の種類や生地の重なり具合、
アルカリ電池の種類により
縫製可能持続時間には差があります。

【1】ミシンの底面にある『電池蓋』を開きます。

【2】単3形アルカリ電池を4本
図のようにセットします。

*電池の向きを必ず確認してください。

【3】『電池蓋』を閉じます。

【4】『電源スイッチ』を『I』側に押し、
電源を ON にします。

フットスイッチ



警告



- ・電源コードはACアダプターを持って抜く。
コードのみを引っ張ると、ACアダプターのコード部分が破損し、火災、感電、機器故障の原因になります。



注意



- ・電源スイッチを『OFF』にする。
突然動くとかげをする恐れがあります。

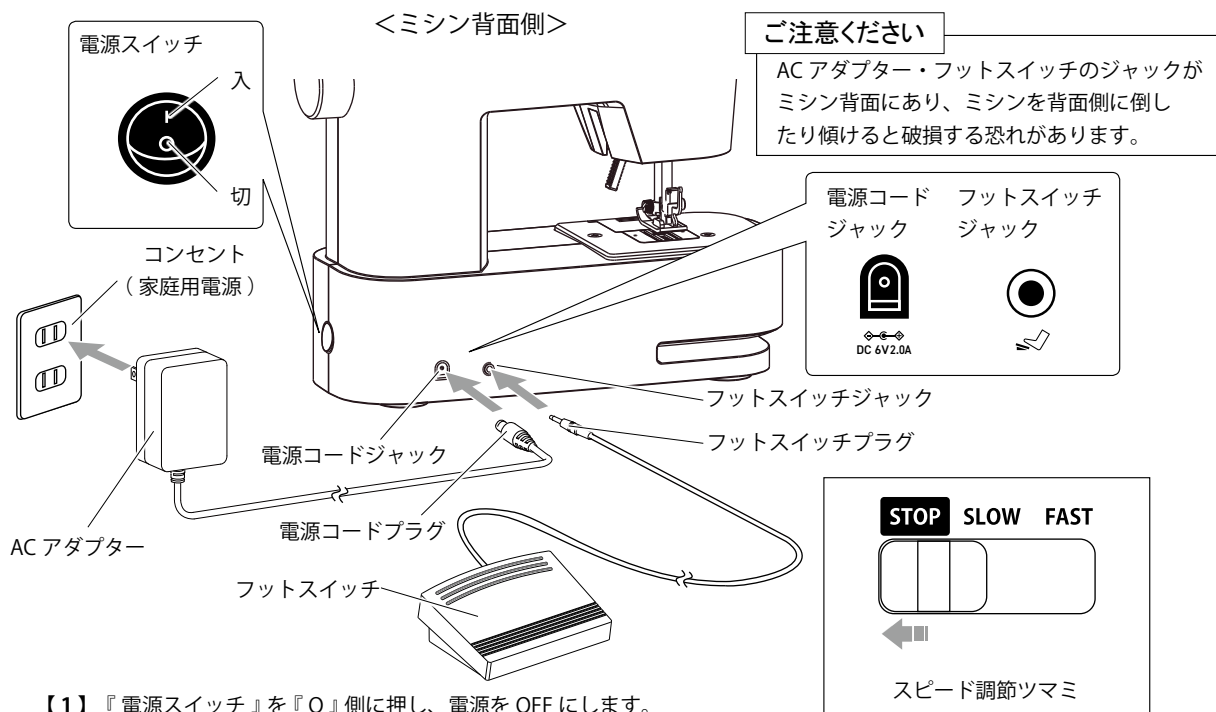
- ・はずみ車や針周辺に手や物を置かない。



- ・水平なところにミシンを設置する。
- ・作業スペースを確保する。

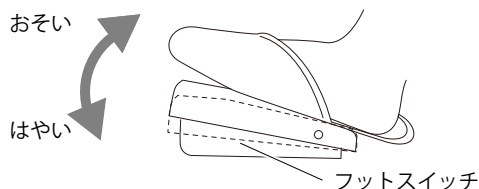
- ・周囲に物を置かない。

- ・フットスイッチの上に物を置かない。



- 【1】『電源スイッチ』を『O』側に押し、電源をOFFにします。
- 【2】『フットスイッチプラグ』を『フットスイッチジャック』に奥まで確実に差し込みます。
- 【3】『電源コードプラグ』を『電源コードジャック』に確実に差し込みます。
- 【4】『ACアダプター』を『コンセント(家庭用電源)』に確実に差し込みます。
- 【5】『電源スイッチ』を『I』側を押し、電源をONにします。
- 【6】『スピード調節ツマミ』を『STOP』にして、『フットスイッチ』で操作します。

『フットスイッチ』でのミシンの動かしかた・止めかた



『フットスイッチ』を踏むと、ミシンが動き始めます。

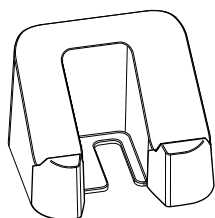
また、踏むのをやめるとミシンは止まります。

*踏み込み加減によってスピードはおそい、はやいに切り替わります。

おそい：『フットスイッチ』を浅く踏みます。

はやい：『フットスイッチ』を深く踏みます。

スマホスタンド / 針ガード



お持ちのスマートフォンを置くことができます。

ミシンを使っている途中で、「ちょっと離れる」ときに、針の前にかぶせてお子様が直接針に触れるのを防ぎます。

また、このミシンには様々な使いかた説明の動画を順次ご紹介します。

各部の操作説明をはじめ、上糸のかけかた・下糸のかけかたや注意すべき重要個所を分かりやすく説明しています。

お持ちのスマートフォン以外にもタブレット・お持ちのパソコンなどでもご覧になれます。不具合が起きたときにもご活用になれます。

ぜひ、ご活用ください。

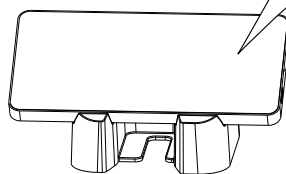
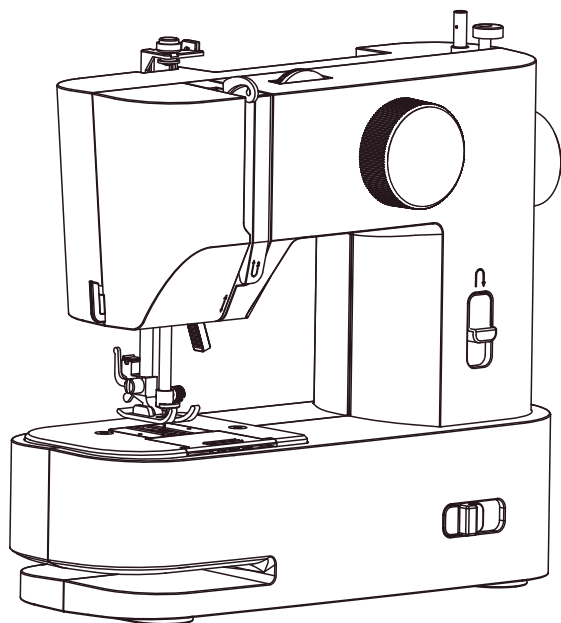
<http://www.axeyamazaki.co.jp/kosodate/index.html>

QRコード
シール



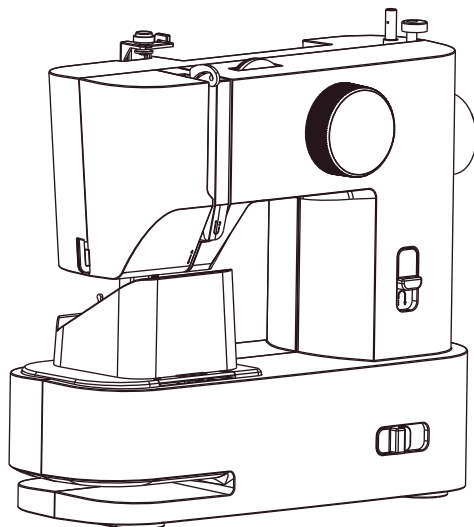
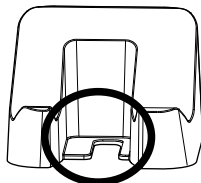
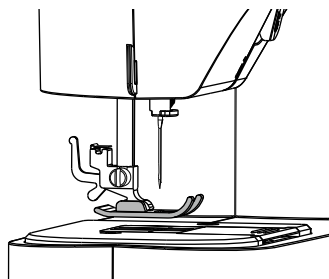
付属の『QRコードシール』は
見やすいところに貼って下さい。

使いかた説明動画で
見ながら使うと
らくらく楽しめます



ミシンから離れるときは
『スマホスタンド』を針ガードとして使えます。

1. 押えを上げる
2. 『スマホスタンド』の○で囲んだ部分を
押えの下に挿入します。
3. 押えを下げます。



模様選択



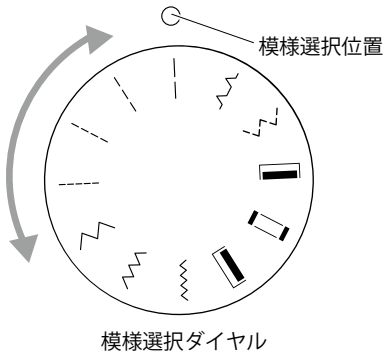
注意



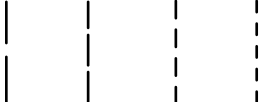
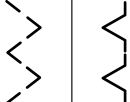
・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。



・針が生地に刺さった状態で模様選択ダイヤルを回さない。
針が折れ、ケガをする恐れがあります。

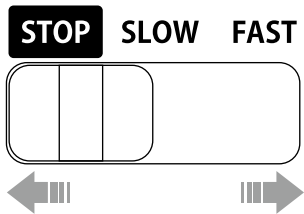


模様選択は『模様選択ダイヤル』を回して、『模様選択位置』にお好みの縫い模様を合わせます。

表示								
模様	直線縫い（中基線）		ジグザグ縫い		ボタンホール	点線ジグザグ	まつり縫い	
	送り幅・最大	送り幅・大	送り幅・中	送り幅・小				振り幅・大
用途	地縫い		ほつれ止め		ボタンホール		パッチワーク	裾上げ

スピード調節つまみ

※『スピード調節つまみ』を『SLOW』、『FAST』に合わせるとミシンはすぐに動きます。



スピード調節つまみ

ミシンの運転速度を好みのスピードにセットします。

- ミシンの運転速度が遅い状態・・・
おそい：『スピード調節つまみ』を『SLOW』に合わせます。
- ミシンの運転速度が速い状態・・・
はやい：『スピード調節つまみ』を『FAST』に合わせます。

※ミシンを停止させたいときは『スピード調節つまみ』を『STOP』に合わせます。

※フットスイッチ使用時は『スピード調節つまみ』を『STOP』に合わせます。

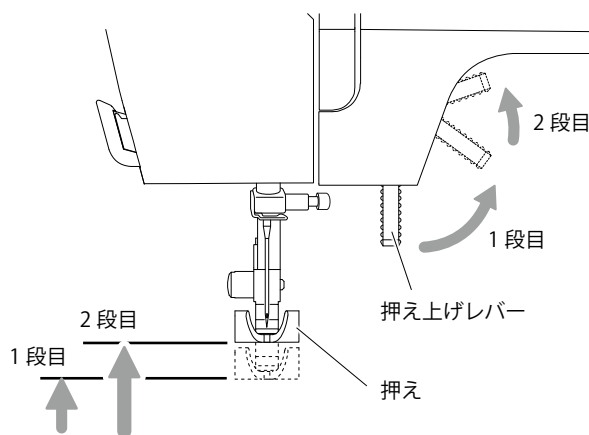
押え上げレバー



注意



・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。



『押え上げレバー（樹脂）』を上げると、『押え』が上がります。
更に『押え上げレバー（樹脂）』を上げると、『押え』がもう一段上がる 2 段階式になっています。

*2 段目では、『押え』の高さは固定できません。

*生地（生地）の厚みは 1 段目の高さを超えないようにしてください。

*『押え上げレバー（樹脂）』を上下するときは、手で持った状態からゆっくり行ってください。

押えの取り外しかた・取り付けかた



注意

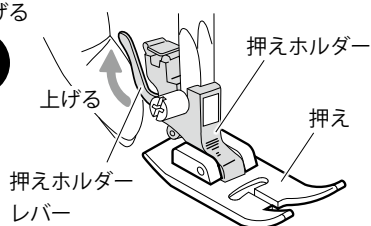


・電源スイッチを『OFF』にする。
突然動くとケガをする恐れがあります。



・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。

針を上げる



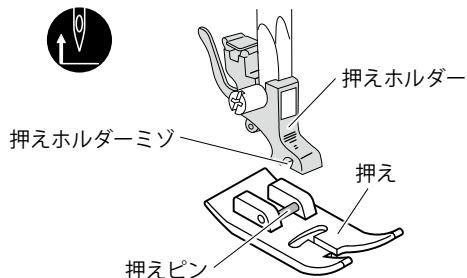
●押えの取り外しかた

【1】『はずみ車』を手前に回し、針を上げます。

【2】『押え上げレバー（樹脂）』を上げます。

【3】『押えホルダーレバー（金属）』を上げると、『押え』が外れます。

針を上げる



●押えの取り付けかた

【1】『針』と『押え上げレバー（樹脂）』を上げます。

【2】『押えピン』を『押えホルダーミゾ』の真下に置きます。

【3】『押え上げレバー（樹脂）』をゆっくり下げ、『押えピン』と、『押えホルダーミゾ』を合わせます。

*『押え』がセットされると「カチッ」と音がします。

*音がしない場合や『押え』がすぐに外れるときはもう一度『押えピン』と『押えホルダーミゾ』を合わせ直してください。

押えホルダーの取り外しかた・取り付けかた



注意

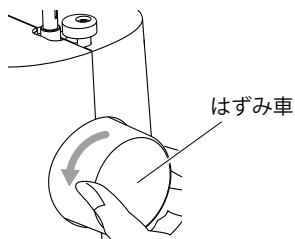


・電源スイッチを『OFF』にする。
突然動くとケガをする恐れがあります。

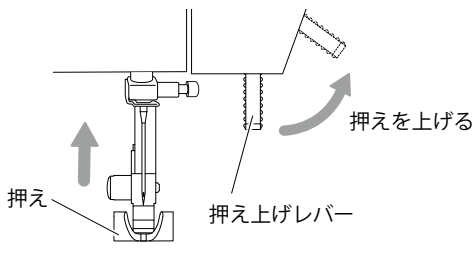


・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。

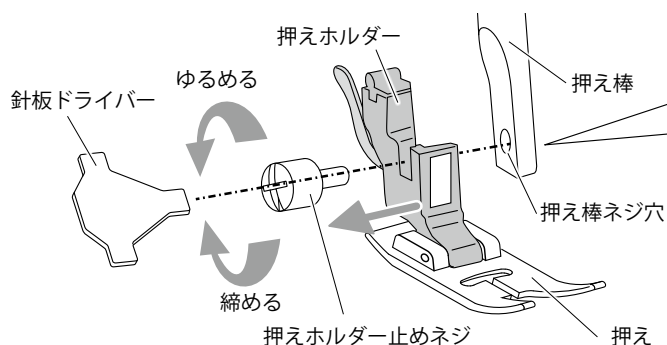
針を上げる



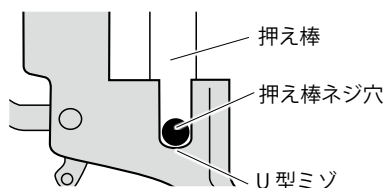
【1】『はずみ車』を手前に回し、針を上げます。



【2】『押え上げレバー』で『押え』を上げます。



＜左側から見た図＞



【3】 外す：『押えホルダー止めネジ』を『針板ドライバー』でゆるめ、
『押えホルダー』を外します。
付ける：『押えホルダーのU型ミゾ』と『ネジ穴』の位置を合わせ、
『押えホルダー止めネジ』を『針板ドライバー』で強く締めます。

ボビンの取り出ししかた



注意



・電源スイッチを『OFF』にする。
突然動くとケガをする恐れがあります。

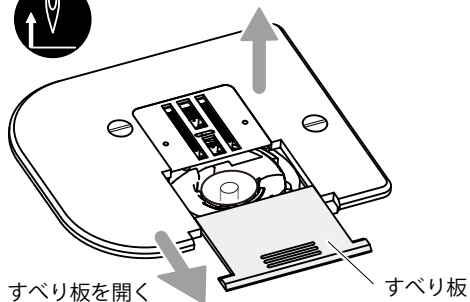


・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。

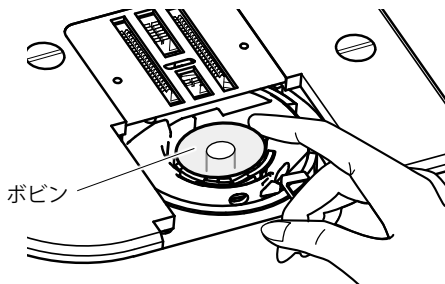
針を上げる



針を上げる



【1】『はずみ車』を手前に回し、針を一番上にします。



【3】 右側より指を入れ、『ボビン』を取り出します。

下糸の準備

*ボビンは家庭用プラスチックボビン（高さ11.5mm×直径20.5mm）をご使用ください。
（異なるボビンをご使用されますとミシンの故障の原因につながります。）

● 下糸の巻きかた



注意

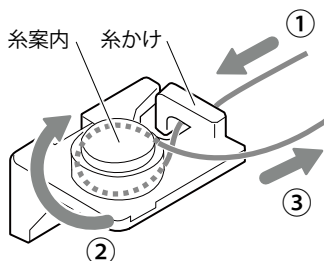


・電源スイッチを『OFF』にする。
突然動くとケガをする恐れがあります。



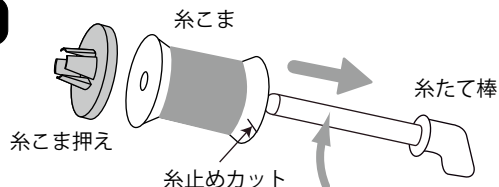
・下糸巻きの作業中は針、天びん、
はずみ車に触れない。
・針先に注意する。ケガをする恐れがあります。

2



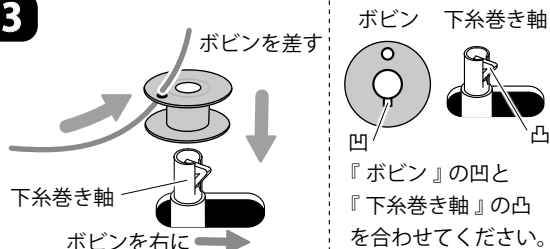
【2】『糸かけ』にかけ、『糸案内』の
下に時計回りに1回転させ、
奥までしっかり糸をかけます。

1



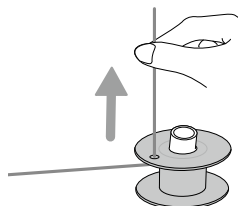
【1】『糸たて棒』を少し上に傾け、『糸こま』の
『糸止めカット』を『糸たて棒』の根元側に向け
奥まで差し込みます。『糸こま』が飛び出してこない
ように『糸こま押え』でしっかり押えます。
*『糸こま』をセットしたあとは『糸たて棒』を
立てたまま使用しないでください。

3



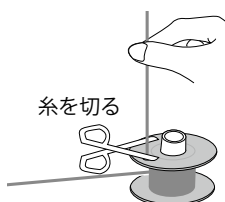
【3】『ボビン』の穴に内側から糸を通し、
『ボビン』を『下糸巻き軸』に
差し込み、右に移動させます。

4



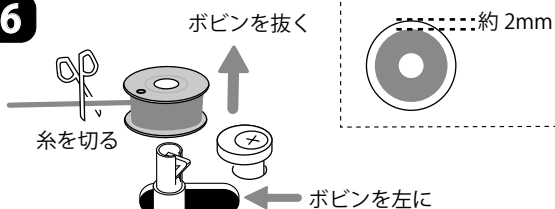
【4】『電源スイッチ』の『I』側を押し、ON にします。
糸の端を持ち『スピード調節ツマミ』を
『SLOW』にして『ボビン』に5～6回転
巻きつけます。

5



【5】『スピード調節ツマミ』を『STOP』に
してミシンを一度止め、持っていた糸を
『ボビン』の穴のきわで糸を切ります。
*糸端が残らないように注意します。

6



【6】『スピード調節ツマミ』を『FAST』にして
8割ほど巻き終わったら、ミシンを止め
『下糸巻き軸』を左に押し『ボビン』を
取り出し糸を切ります。

●下糸のセット

*ボピンは家庭用プラスチックボピン（高さ11.5mm×直径20.5mm）をご使用ください。
（異なるボピンをご使用されますとミシンの故障の原因につながります。）



注意



・電源スイッチを『OFF』にする。
突然動くとケガをする恐れがあります。



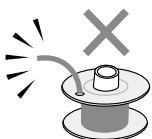
・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。



注意

*糸の端が上記のように残っていると、糸が釜内部に引っ掛かり、糸絡みの原因になります。

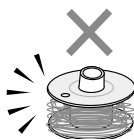
糸が残っている



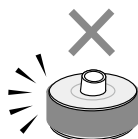
糸の輪が出来ている



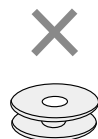
糸がゆるい



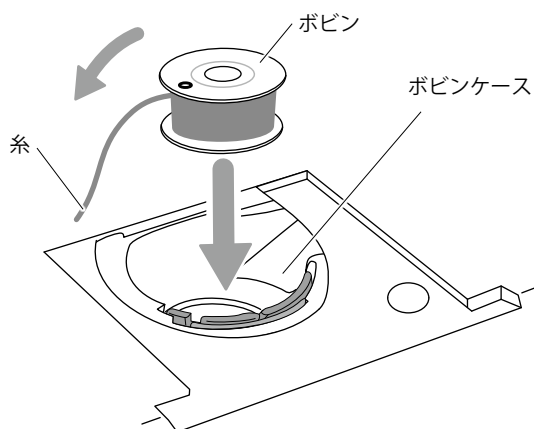
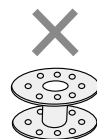
糸を巻き過ぎている



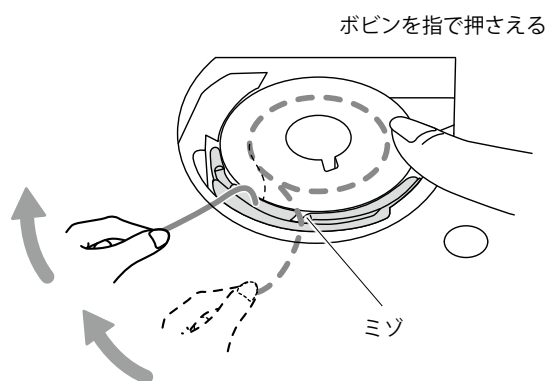
サイズが異なる



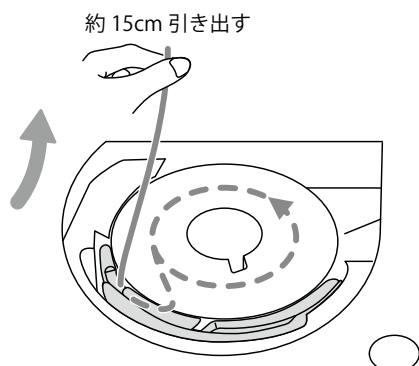
金属製のボピン



【1】下糸は『ボビン』の左側から糸が出るように『ボビンケース』に入れます。

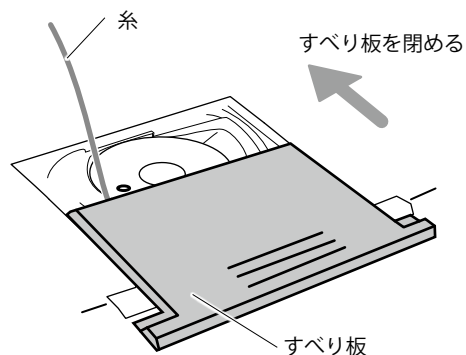


【2】『ボビン』を指で軽く押えながら、引き出した糸を『ミゾ』にかけ、左奥に引き出します。



【3】糸を向こう側に約 15cm 引き出します。

*糸を引き出したとき、『ボビン』は反時計方向に回転します。



【4】『すべり板』を閉めます。

*『すべり板』で糸を挟まないように注意します。

上糸の準備

• 上糸のかけかた



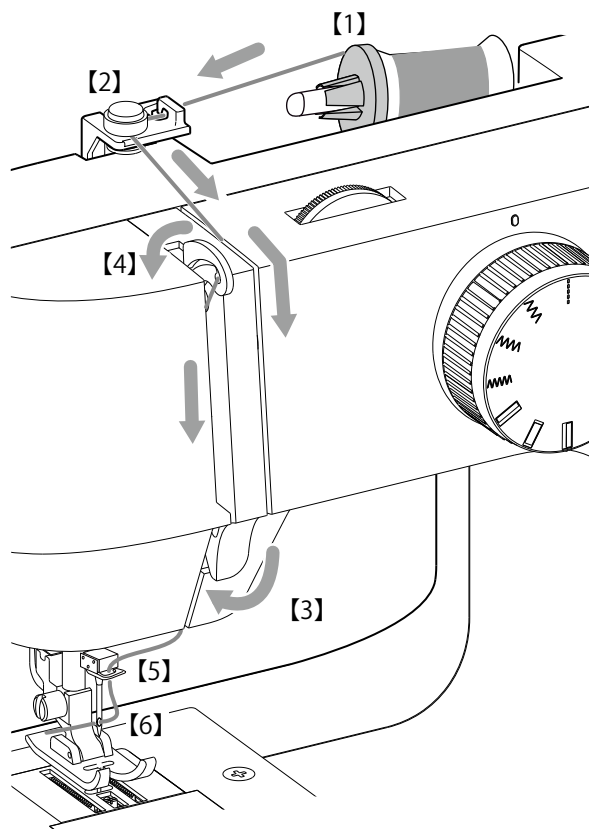
注意



・電源スイッチを『OFF』にする。
突然動くとかげをする恐れがあります。



・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。

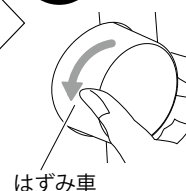
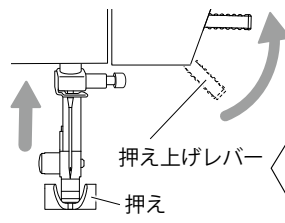


準備：ポイント！

針を上げる

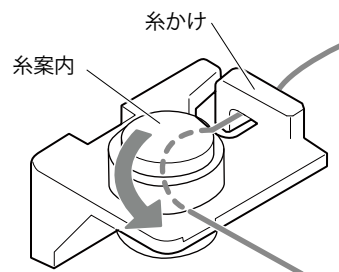


『はずみ車』を手前に回し、
『天びん』を一番上にします。

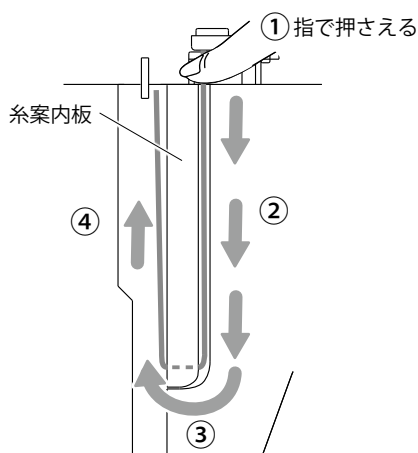


『押え上げレバー』で
『押え』を上げます。

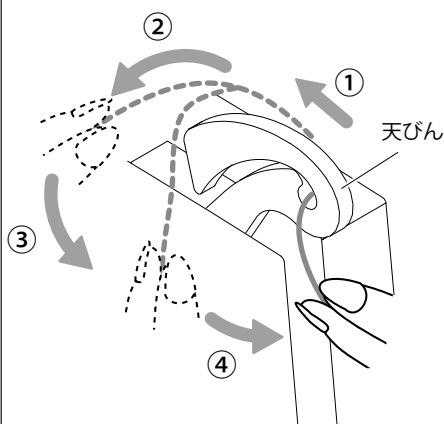
【1】『糸たて棒』に『糸こま』と『糸こま押え』
をセットします。
(P10 / 下糸の準備を参照してください)



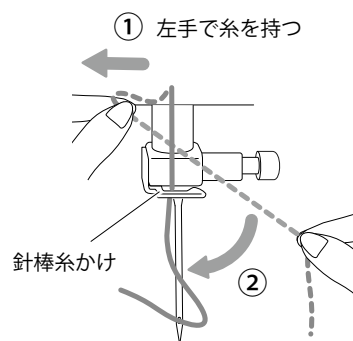
【2】『糸かけ』と『糸案内』に糸をかけます。



【3】糸を軽く指で押えながら
『糸案内板』にそって下まで
おろし、左上へ引き上げます。

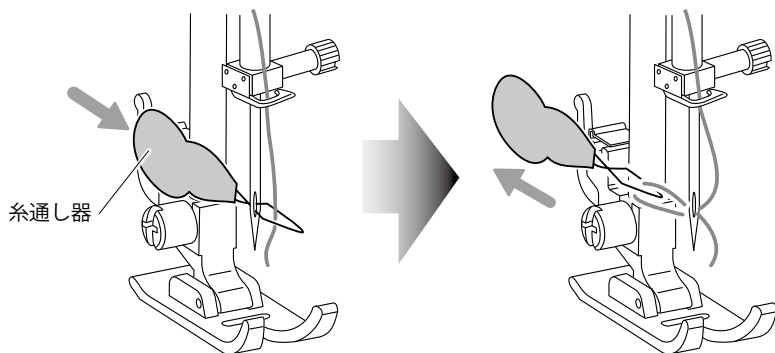


【4】糸を『天びん』の穴に右から
左へ通し、そのまま『糸案内板』
にそって糸をおろします。



【5】『針棒糸かけ』に右側から
糸をかけます。

ミシンの後側から差し込む



【6】 針の後側から『糸通し器』通します。
『糸通し器』の上から糸を通し、
『糸通し器』を後側に引きます。

*『糸通し器』が使いにくいときは
『押え』を下げてください。

*『糸通し器』を使用しない場合、
針穴に【正面からう後側】に糸を通します。

*糸を通す方向が逆の場合、正しく縫えません。

*針に糸が巻きつかないように注意してください。

●下糸の引き上げかた



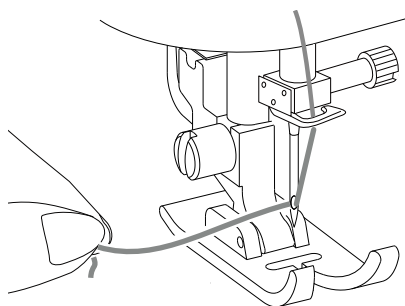
注意



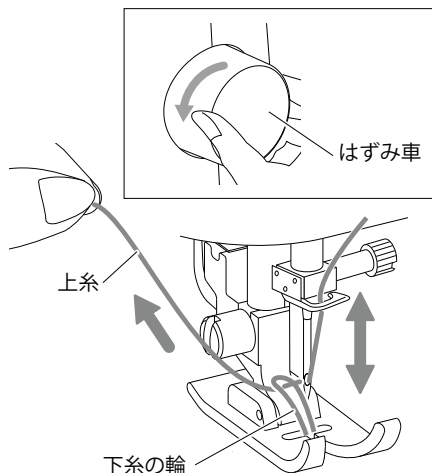
・電源スイッチを『OFF』にする。
突然動くとかげをする恐れがあります。



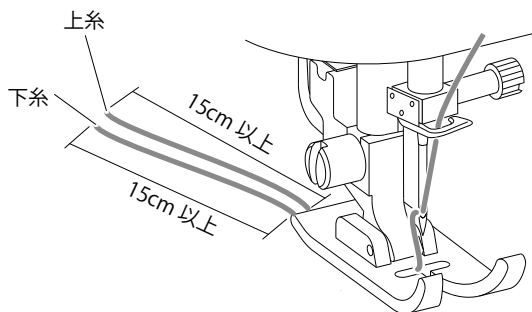
・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。



【1】『押え上げレバー』で『押え』を上げ、
上糸の端を持ちます。



【2】『はずみ車』を手前に1回転させ、
上糸を軽く引くと下糸の輪が引き出されます。
下糸の輪をつまみ、下糸を引き上げます。
*はずみ車を後側に回すと下糸の輪が
引き出されません。



【3】上糸と下糸をそろえ『押え』の下に通し
15cm 以上を後方に引き出します。

*『押え』が下がっているときは上げてください。



注意



糸を 15cm 以上
引き出してください。

*糸を 15cm 以上引き出さないと、縫い始めに
針から糸が抜けて『天びん』に絡んでしまい
ミシンが動かなくなることがあります。



注意



・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。



・針が生地に刺さった状態で模様選択ダイヤルを回さない。
針が折れ、ケガをする恐れがあります。

【1】 縫い模様を選びます。(P7 / 模様選択を参照してください)

【2】 『上糸調節ダイヤル』を4に合わせます。

*縫い上がりの生地の糸調子が合わない場合、
(P15 / 糸調子の合わせかたを参照してください)

【3】 生地を『押え』の下に置き、『上糸』と『下糸』を
ミシン後方に15cm以上出して、少し引っ張りながら
『はずみ車』を手前に回して縫い始める位置に針を刺します。

【4】 『押え』を下げます。

【5】 『電源スイッチ』を『I』側を押し、ONにします。

*糸かけなどのまちがいがないか確認のため、
『はずみ車』を手前に回し、3~5針を縫います。

【6】 ● 手元操作の場合

『スピード調節つまみ』を『SLOW』又は『FAST』に
合わせると、ミシンは動きます。

● フットスイッチの場合

『スピード調節つまみ』を『STOP』に合わせて、
『フットスイッチ』を踏み込むとミシンは動きます。

【7】 生地に手を軽くそえ、生地の進む方向を修正します。

【8】 ● 手元操作の場合

『スピード調節つまみ』を『STOP』に合わせると、
ミシンは止まります。

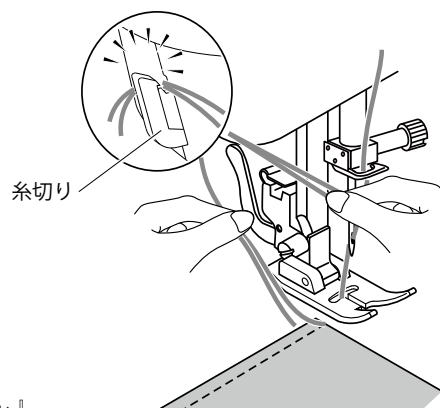
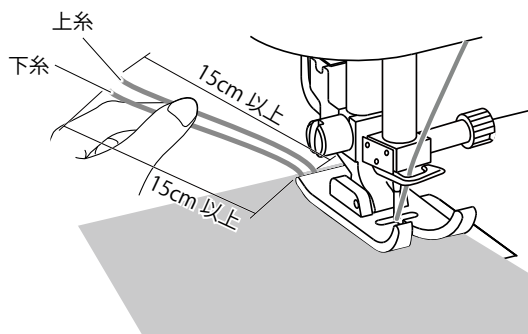
● フットスイッチの場合

『フットスイッチ』を踏み込むのを止めるとミシンは止まります。

【9】 生地を引き出すとき、『はずみ車』を手前に回して『針』と『天びん』
を上げてから、生地を引き出します。

【10】 『糸切り』で糸を切ります。

*上下の糸を少し引っ張りながら『はずみ車』を
手前に回して縫い始める位置に針を刺します。



返し縫い



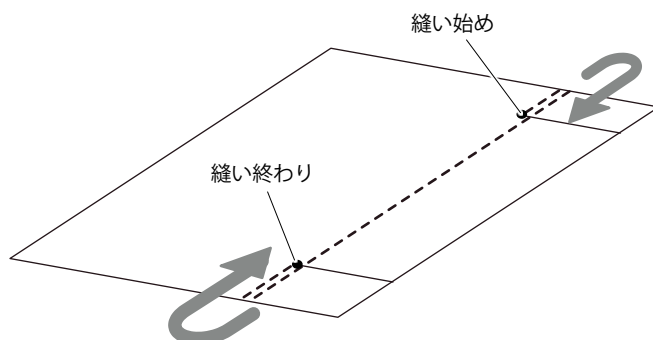
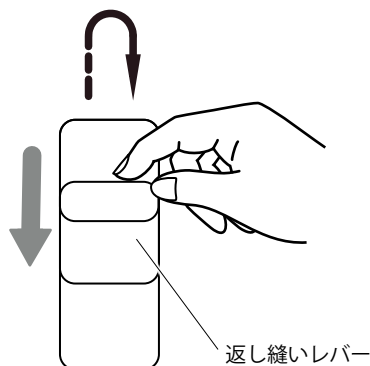
注意



・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。



・針が生地に刺さった状態で返し縫いレバーを押さない。
針が折れ、ケガをする恐れがあります。



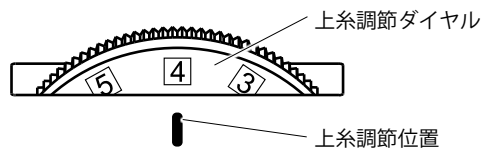
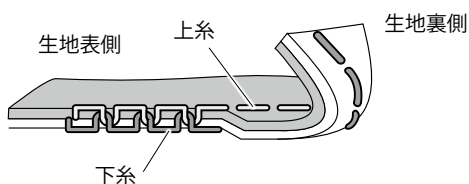
ミシンが動いているとき、『返し縫いレバー』を押している間は後進縫いになり、
『返し縫いレバー』から手を放すと前進縫いに戻ります。

*縫い始めと縫い終わりに返し縫いをするとはつれ止めになります。

糸調子の合わせかた

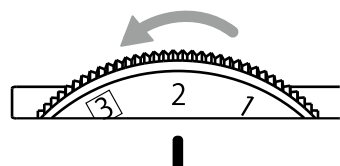
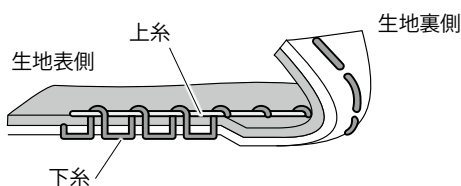
糸調子が合わない場合は、『上糸調節ダイヤル』を回し調節してください。

●正しい糸調子



上糸と下糸が生地のほぼ中央で交わります。

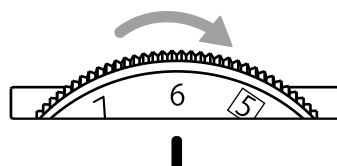
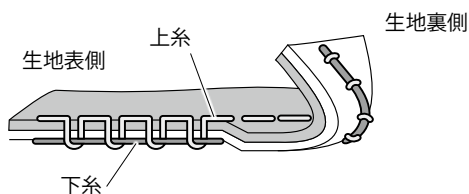
●上糸が強いとき



下糸が生地の表に出ます。
『上糸調節ダイヤル』を数字の
小さい方に回します。

*下糸のボビンが正しくセットされているかの確認もしてください。
(P11 / 下糸のセットを参照してください)

●上糸が弱いとき

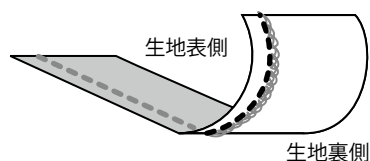


上糸が生地の裏に出ます。
『上糸調節ダイヤル』を数字の
大きい方に回します。

*上糸のかけかたが間違っていないかの確認もしてください。
(P12 / 上糸のかけかたを参照してください)

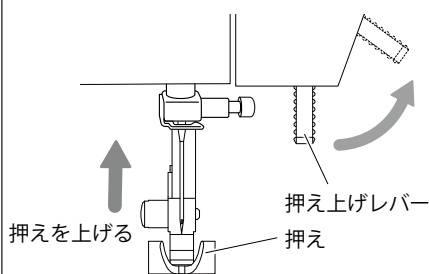
●生地の裏側の糸がタオル状のようなときは…

- ・上糸調子が弱い。 ・『押え上げレバー』が上がっている。
- ・『天びん』から上糸が外れている。 ・上糸のかけかたが間違っている。

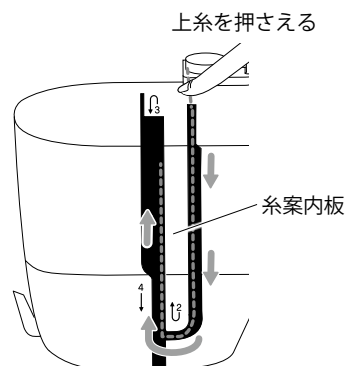


ポイント！

*『押え』を上げ、上糸を全て外し、上糸を再度正しくかけ直してください。
(P12 / 上糸のかけかたを参照してください)



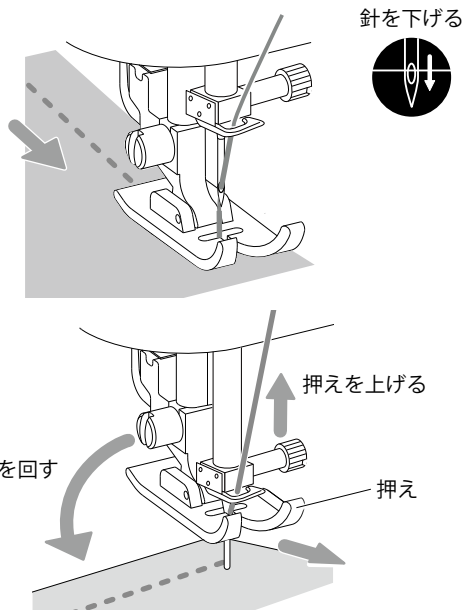
【1】『押え上げレバー』で、『押え』を上げます。



【2】上糸を押さえながらミズの奥に
しっかり糸を通します。

縫い方向の変えかた

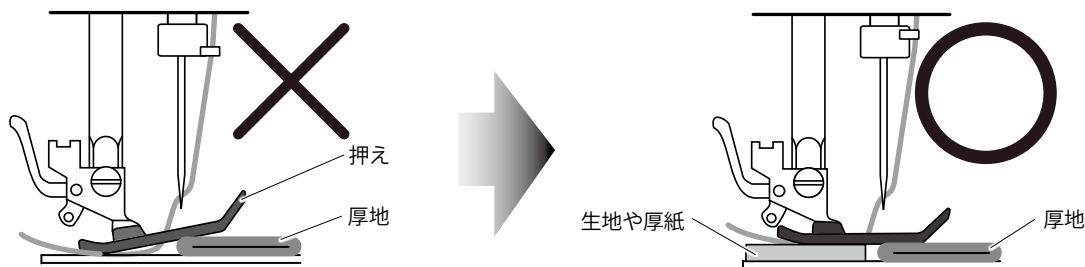
- 【1】 生地を角まで縫い、ミシンを止め、『はずみ車』を手前に回し、針を生地に深く刺します。
- 【2】 『押え上げレバー』で『押え』を上げます。
- 【3】 針を軸に生地を回し、縫い方向を変えます。
- 【4】 再び『押え上げレバー』で『押え』を下げ、縫い始めます。



厚地や段差を縫う

縫い始めや段差を縫うとき

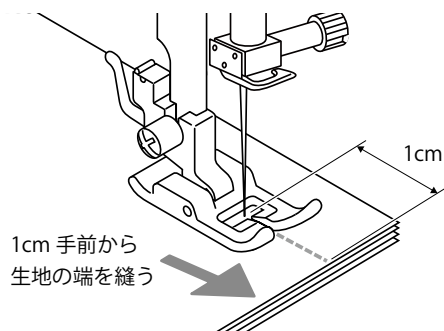
- * 厚い生地は、フットスイッチでご使用ください。
- * 厚い生地や固い生地は、針が刺さりにくく止まってしまうことがあります。
- * 『はずみ車』を手で回しながら縫い進めて下さい。(手で回しても固いときは、無理に回さないで下さい)



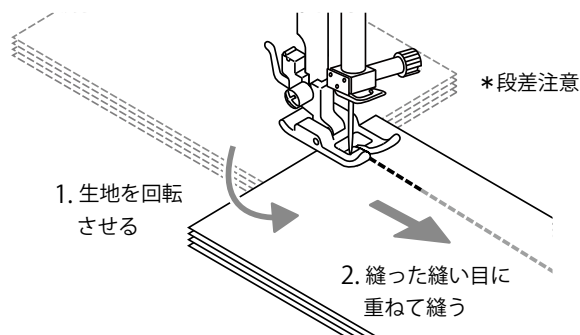
厚地を生地の端から縫い始めると『押え』が傾き、生地が進まなくなることがあります。
その場合、『押え』の下に厚地と同じ厚さの生地や厚紙を置き、傾きをなくすと順調に縫い進めることができます。

- * タオル地を縫うときは、両端の耳を切り落としてから縫ってください。
- * 厚地を縫うときは、市販の家庭用ミシン針：16番をご使用されることをおすすめします。
- * 家庭用ミシン針：16番は付属しておりません。

● 厚い生地の返し縫い



- 【1】 生地の手前から1cmのところに針を刺し、そこから生地の手前まで縫います。

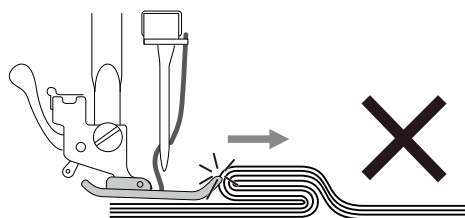


- 【2】 針を刺した状態のまま『押え上げレバー』で『押え』を上げて、生地を回転させます。
- 【3】 『押え上げレバー』で『押え』を下げます。先ほど縫った縫い目に重ねて縫います。

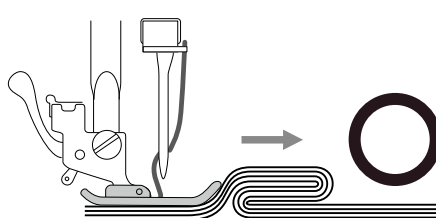
● 生地を重ねる方向の違い

生地を重ねる方向の違いについて注意してください。下図を参考にすると、生地が進みやすくなります。

・登りにくい段差



・登りやすい段差



糸、針、生地の関係

	生地の種類	針の種類・番号	糸の種類・番号
薄地	一般裏地、ローン、ジョーゼット、レース、キュプラなど	9、11 番	綿 60～100 絹 50～90 化繊糸 60～90
普通地	一般服地、ブロード、ソフトデニム、サテン、パイル、ギンガムなど	11、14 番	綿 60～90 絹 50～90 化繊糸 60～90
厚地	キルティング、※フリース、ツイード、デニム、フェルトなど	14、16 番	綿 40～50 絹 50 化繊糸 50～60
伸縮地	ニット、トリコット、スパンデックス、ジャージなど	ニット用針 11、14 番	綿 60 化繊糸 50～90 ニット用糸 50～90

* 針は数字が大きくなるほど太くなります。糸は数字が大きくなるほど細くなります。

(針の交換方法は P20 / 針の交換を参照してください)

* 上糸と下糸は同じ種類・同じ太さの糸をご使用ください。

* 表はあくまで参考です。必ず試し縫いをして、縫い目をご確認ください。

* 針は家庭用ミシン針 (HA × 1)、糸は家庭用ミシン糸とご指定の上お買い求めください。

(工場出荷時、ミシン本体には HA × 1・14 番の針がセットされています)

* 針は 14 番しか付属しておりません。9 番、11 番、16 番の針、ニット用針は付属しておりません。

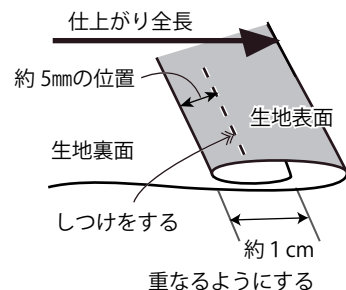
* 厚地のものや固い生地は、縫う前に手で『はずみ車』を回し、生地を貫通する様子や生地の送り具合をご確認いただいてから縫い始めてください。

* ミシン糸と手縫い糸では糸の撚り (ねじれ) 方向が異なります。手縫い糸 (右撚り) はミシンではご使用できません。

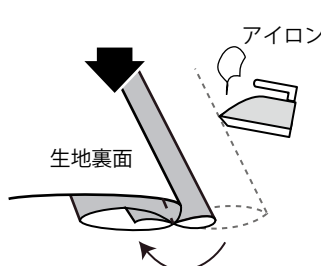
* カタン糸、ニット用糸、テグス糸 (透明) の糸は、縫製に技術が必要なので推奨できません。

* ※フリース、ベルベット、バスタオルなどの毛足が長い生地は、縫製に技術が必要なので推奨できません。

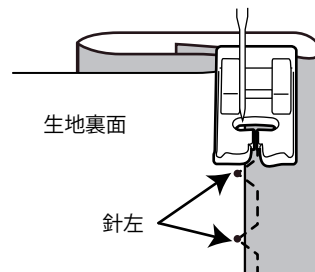
まつり縫い (裾上げ)



【1】 生地を図のように折り、しつけをします。

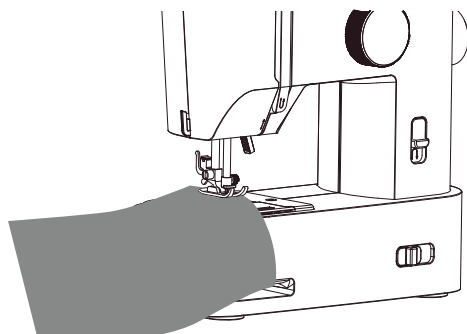


【2】 しつけ縫い目を開き、アイロンで伸ばします。



【3】 生地の折山に針左がわずかにかかる位置に生地を合わせて縫います。生地を返し、しつけ糸を抜きます。

フリーアーム



ズボンの裾や袖をそのまま左側から差し込んで筒状のものを縫うことができます。

ボタンホール縫い

ボタンの大きさにあったボタンホールを縫うことができます。



注意



・押えの交換時は、電源スイッチを『OFF』にする。
突然動くとかげをする恐れがあります。

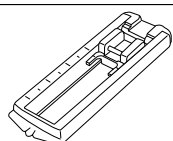


・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。

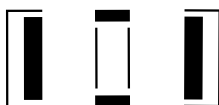
・縫い損じを防ぐため、製品に縫う前に必ず別生地で作ったボタンホールを作り、ボタンが通るかご確認ください。

押え

模様表示

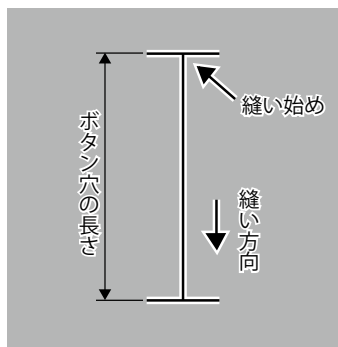


ボタンホール押え



ポイント

伸縮性の生地や薄い生地は不織布（芯地）を裏に貼るとよりきれいに仕上がります。



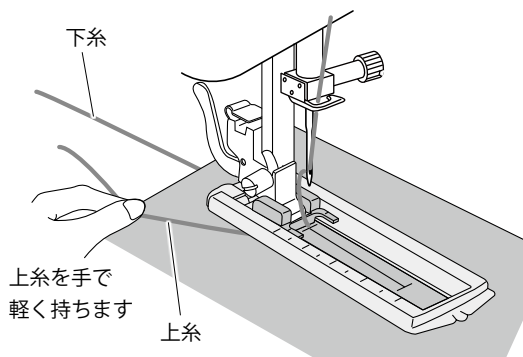
【1】 ボタンの大きさと厚さ、生地の種類に応じてボタンの穴の長さを決め、ボタンホールを作る生地に印を付けます。

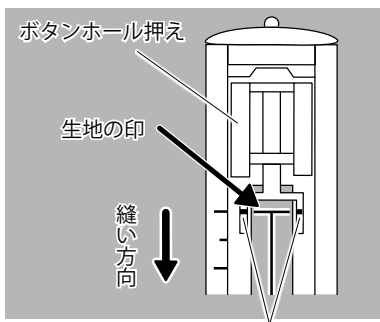
*生地印を付けておくと、縫う方向を間違えません。

ボタンの穴の長さ＝ボタンの直径＋ボタンの厚み

【2】 『押え』を『ボタンホール押え』に交換し、『ボタンホール押え』の枠を手前に引いておきます。
(P8 / 押えの取り外しかた・取り付けかたを参照してください)

*『ボタンホール押え』は、『押え上げレバー』を2段階まで上げて交換してください。
(P8 / 押え上げレバーを参照してください)





ボタンホール押えの赤い線

【3】 生地に付けたボタンホールの印と

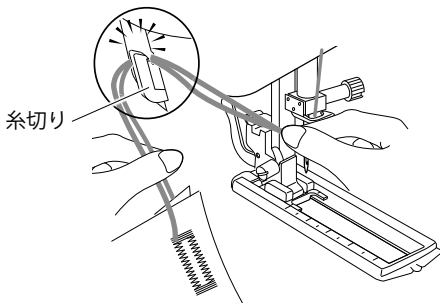
『ボタンホール押えの赤い線』を合わせて、生地を置きます。
『押え上げレバー』で『ボタンホール押え』を下げます。

*生地が斜めになっていると、ボタンホールが生地に対して斜めに作られますのでご注意ください。

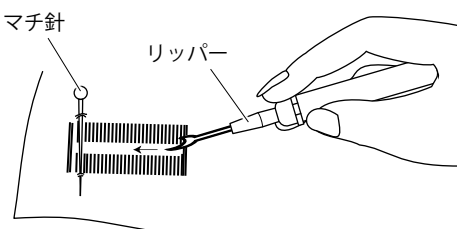
【4】 以下の手順で縫い始めます。

1. 『模様選択ダイヤル』を回して、『ボタンホール模様1』を選択し、上糸を軽く持ち、ミシンを動かして縫い始めます。縫い始めから縫い終わりまで縫い、ミシンを止めて持っている上糸を切ります。
2. 『模様選択ダイヤル』を回して、『ボタンホール模様2』を選択し、ミシンを動かして5～6針かんぬき止めをしてミシンを止めます。
3. 『模様選択ダイヤル』を回して、『ボタンホール模様3』を選択し、ミシンを動かして縫い終わりから縫い始めまで縫い、ミシンを止めます。
4. 『模様選択ダイヤル』を回して、『ボタンホール模様4』を選択し、ミシンを動かして5～6針かんぬき止めをしてミシンを止めます。

	1	2	3	4
模様				
縫いかた	縫い始め 縫い終わり	5～6針を かんぬき止め	縫い始め 縫い終わり	5～6針を かんぬき止め



- 【5】 『押え上げレバー』で『ボタンホール押え』を上げ、
『糸切り』で糸を切ります。



注意



・リッパーの先端に手をそえない。
ケガをする恐れがあります。

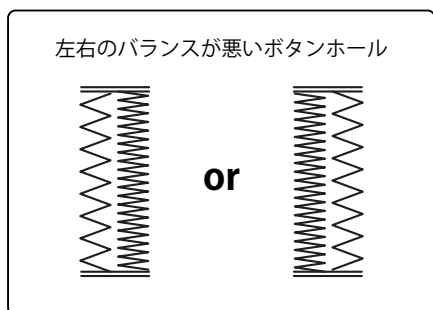
- 【6】 ボタンホールの穴に市販の『リッパー』を刺し、
押しながらボタン穴を切り開きます。

*マチ針をかんぬき部分に刺しておくと、
ボタンホールの切り開き過ぎを防げます。

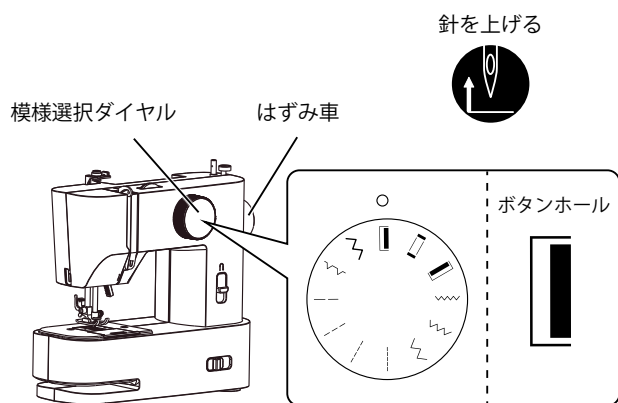
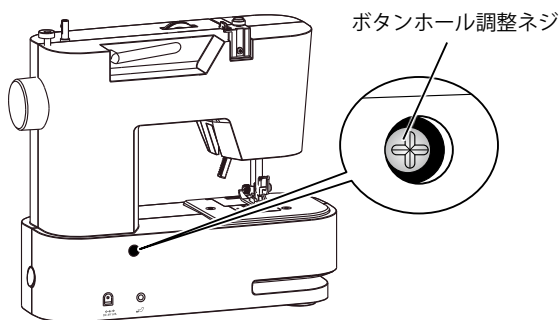
*『リッパー』は付属しておりません。

● ボタンホールの左右縫い目のバランス調整

条件によって（生地の種類など）ボタンホールの左右縫い目の長さに違いが現れることがあります。
このような場合には、『ボタンホール調整ネジ』を調整することで、ボタンホールの左右縫い目の密度を調整することができます。



<ミシン背面側>



【1】『はずみ車』を手前に回し、針を上げます。

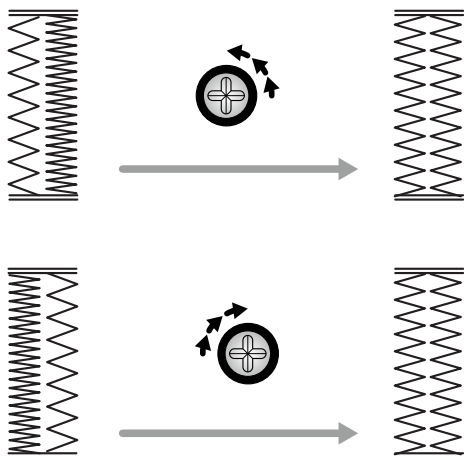
【2】『模様選択ダイヤル』を図のボタンホールの模様に合わせてみます。

*他の模様を選択すると『ボタンホール調整ネジ』が正しい位置になりません。

正しい位置



正しくない位置



【3】 ボタンホールの右側の縫い目が細かすぎる場合はミシンの背面の『ボタンホール調整ネジ』を左に回してください。

ボタンホールの右側の縫い目が粗すぎる場合はミシンの背面の『ボタンホール調整ネジ』を右に回してください。

*『ボタンホール調整ネジ』を一度に 90°程回してから試し縫いをして様子を見ながら調整してください。

『ボタンホール調整ネジ』を回し過ぎると、『ボタンホール調整ネジ』が外れてしまいます。

*#2（先端が尖っていないタイプ）相当のプラスドライバーを使用してください。

（#2のプラスドライバーは付属しておりません）

お手入れ

● 針の交換



注意



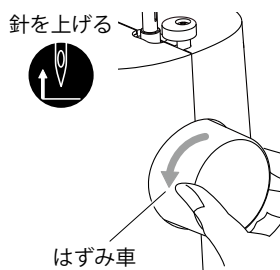
・AC アダプターをコンセントから抜く。

・電池を外す。
突然動くとケガをする恐れがあります。

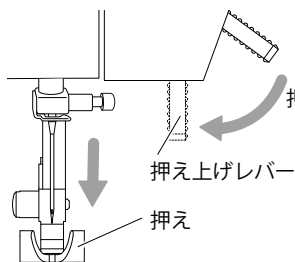
・針止めネジはしっかり締めます。
ミシン動作中に針が落下して、ケガをする恐れがあります。



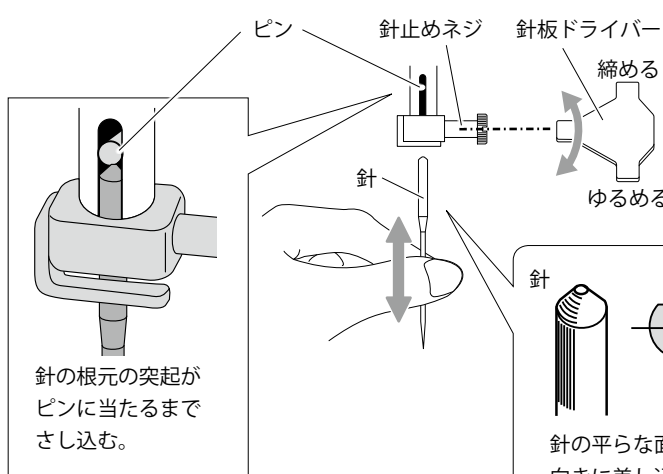
・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。



【1】『はずみ車』を手前に回し、針を上げます。



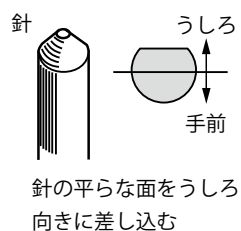
【2】『押え上げレバー』で『押え』を下げます。
*『押え』の下に紙などをしくと針の落下を防げます。



【3】『針止めネジ』を『針板ドライバー』で、手前に2回転程回して針を外します。
*『針止めネジ』はゆるめ過ぎないようにしてください。

【4】新しい針の平らな面を自分から見えないように持ち、『ピン』に当たるまで奥まで差し込みます。

【5】『針止めネジ』を『針板ドライバー』でしっかり締めます。



● 正しい針の選びかた

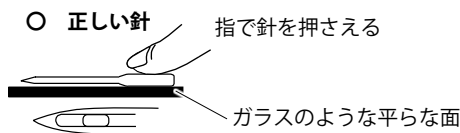


注意



・曲がった針は使用しないでください。
ケガをする恐れまたは故障の原因になります。

*家庭用ミシン針 (HA×1) をご使用ください。



*ガラスのような平らな面に針を置き、針の曲がり具合を確認してください。

*目飛び、糸絡みがある場合、針の不具合がある場合があります。一度針を交換してください。

*不良の針を使い続けると、きれいに縫えないばかりでなく、『針板』や『かま』に傷を付けます。新しい針に交換してください。

× 悪い針



全体に曲がっている



先端のつぶれ



先端の曲がり

●カマのそうじ

カマには糸くずやほこりがたまりやすく、縫製不良になる場合があります。
定期的にそうじをしてください。



注意

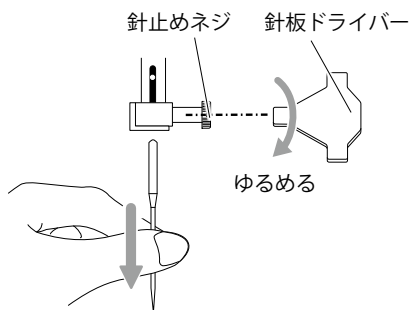
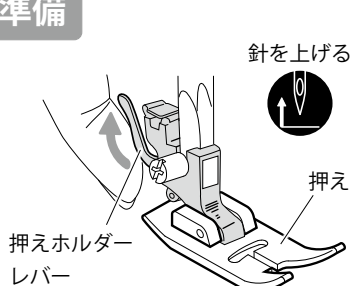


- ・電源スイッチを『切』にしてから
ACアダプターをコンセントから抜くまたは
電池を外す。
突然動くとケガをする恐れがあります。



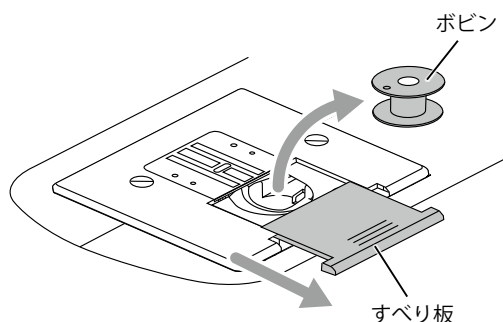
- ・説明書に記載してある以外の
修理、改造、分解は禁止。
ケガをする恐れがあります。

準備

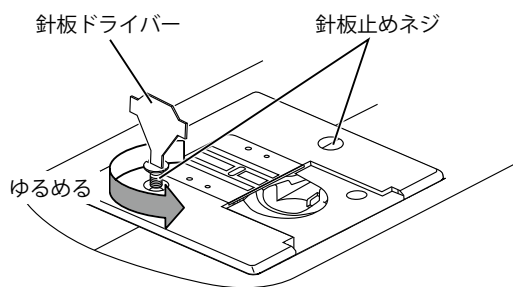


『押え』と『針』を外します。
(P8 / 押えの取り外しかた
P21 / 針の交換をご参照ください)

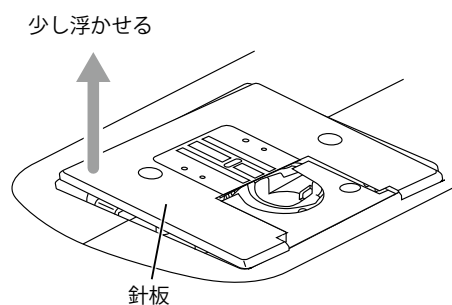
●針板、ボビンケースの取り外しかた



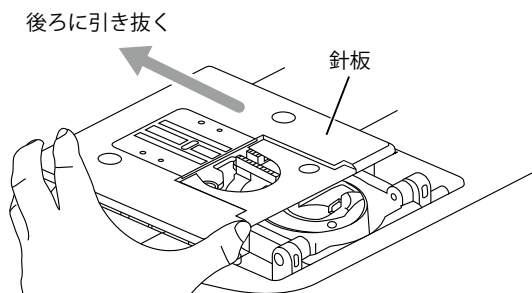
【1】『すべり板』と『ボビン』を外します。



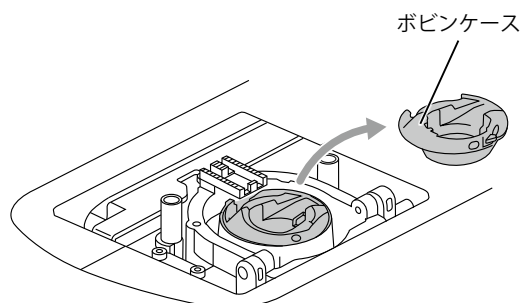
【2】付属の『針板ドライバー』で『針板止めネジ』を2ヶ所外します。



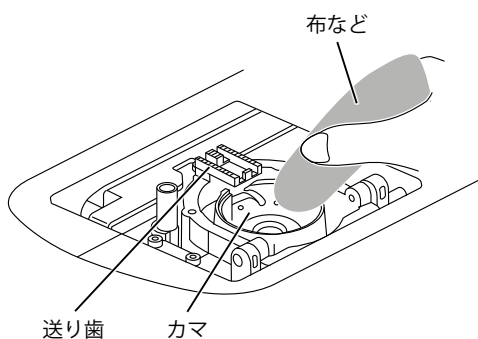
【3】『針板』の後方を少し浮かせます。



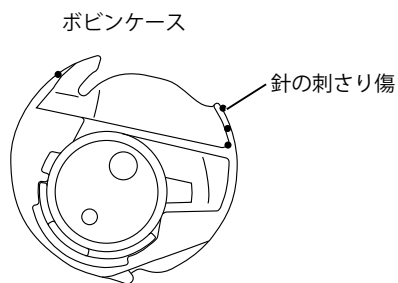
- 【4】『針板』の後方を浮かしたまま後ろに引き抜きます。



- 【5】『ボビンケース』を外します。

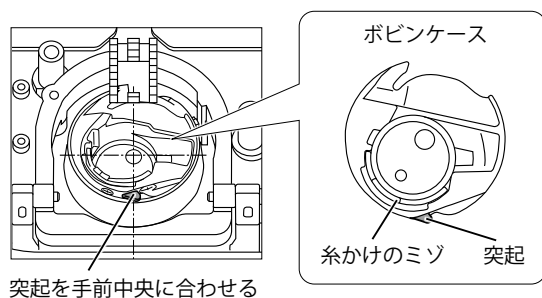


- 【6】布などで『カマ』や『送り歯』の糸くずやホコリを取り除きます。
*『カマ』の先端は尖っているのでケガに注意してください。

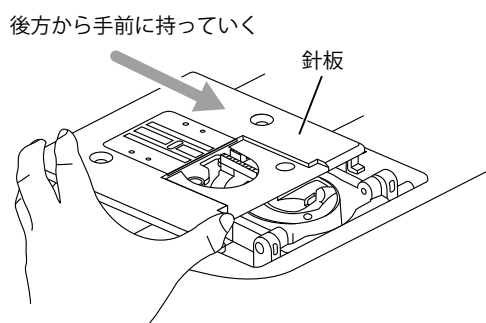


- 【7】『ボビンケース』に傷がないか確認し糸くずやホコリを取り除きます。
*『ボビンケース』に針が刺さった傷があると糸が引っかけ糸が絡んだりする可能性があります。
その場合『ボビンケース』の交換が必要です。P26 / サービスセンターにお問い合わせください。

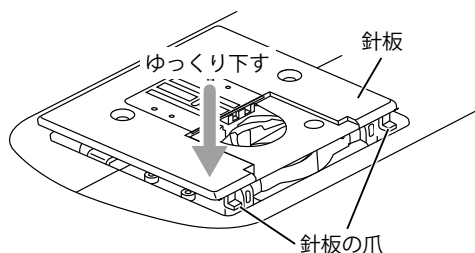
●ボビンケース、針板の取り付けかた



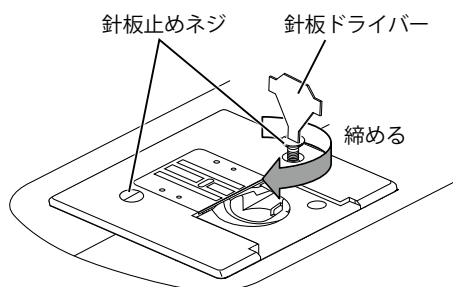
【1】『ボビンケースの突起』を手前中央に合わせます。



【2】『針板』を後方から手前に持っていきます。

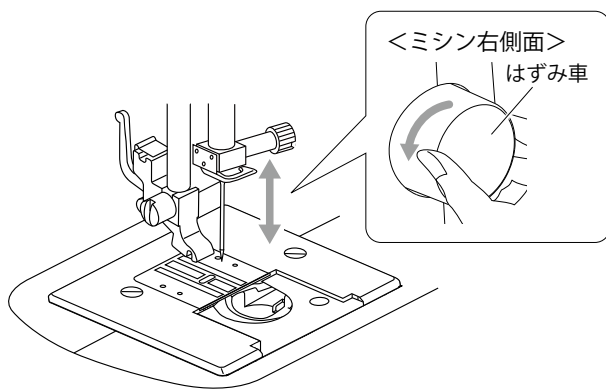


【3】『針板』をゆっくり下し、『針板』の裏の爪をミシン本体のカバーに引っかけるように取り付けます。



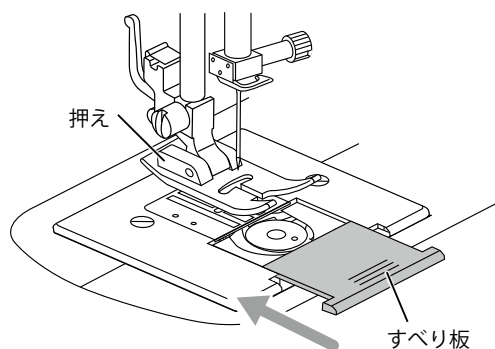
【4】付属の『針板ドライバー』で『針板止めネジ』を2ヶ所締め、『針板』を固定します。

*ネジがしっかり締まっていないと針が干渉したり、『ボビンケース』が動いてしまうなどのトラブルにつながります。



- 【5】 針を取り付け、『はずみ車』を手前に回し
針を上下させてスムーズに動くか確認します。
(P21 / 針の交換をご参照ください)

*『はずみ車』を手前に回してスムーズに動かないときは『針』『針板止めネジ』『針板』を取り外し『ボビンケース』の位置を合わせ直してください。



- 【6】 『ボビン』『すべり板』『押え』を取り付けます。
(P8 / 押えの取り付けかたをご参照ください)

困ったときは

不具合	原因	処置	参照ページ
ミシンが動かない	● ACアダプターの差し込みが不十分 ○ 純正の AC アダプターを使用していない ● 電池を入れる向きが異なる ○ 電池容量が減っている ● 生地が厚く生地が刺さりにくい	● ACアダプターをしっかりと差し込む ○ 必ず純正の AC アダプターを使用する ● 電池の向きを正確に入れ直す ○ 新しい電池に交換する	● P4 ○ P4 ● P4 ○ P4
縫えない	● 曲がった針を使用している ● 天びんから糸が抜けている ○ 正規のボビンを使用していない ● 糸が引っかかっている ○ 糸が絡んでいる	● はずみ車を手でゆっくり回して縫い進める ○ 新しい針に交換する ● 糸を引っ張りながら縫い始める ○ 正規のボビン（樹脂）を使用する	● P16 ○ P21 ● P14 ○ P11
ミシンが途中で止まる	● 糸が絡んでいる ○ 糸が絡んでいる	● 上糸、下糸を取り外し空転で動作確認をする ○ 絡んだ糸を切る 取り除けないときは針板を外し絡んだ糸を取り除く	● — ○ P22
縫っている途中でランプが消える	● 針穴に生地がくい込んでいる	● くい込んだ生地を取り除く 取り除けないときは針板を外し絡んだ糸や生地を取り除く	● P22
生地が送らない	○ 縫い目の長さが生地に合っていない ● 手で生地を押え過ぎている ○ 押えが下がっていない	○ 模様を選び直す ● 手は生地に軽くそえるだけにする ○ 押え上げレバーを下げる	○ P7 ● P14 ○ P8

不具合	原因	処置	参照ページ
針が折れる	● 生地を無理に引っ張っている ○ 針の取り付けかたが間違っている ● 生地に対して針が細過ぎる ○ 上糸の調子が強過ぎる	● 手は生地に軽くそえるだけにする ○ 正しく針を取り付ける ● 生地に合った針を使用する ○ 上糸調節ダイヤルで糸調子を弱める	● P14 ○ P21 ● P17 ○ P15
上糸が切れる	● 上糸のかけかたが間違っている ○ 針が曲がっている、針先が欠けている ● 上糸の調子が強過ぎる ○ 生地に対して糸が細過ぎる ● 糸が劣化している（絹糸や綿糸は劣化しやすい）	● 上糸を正しくかけ直す ○ 新しい針に交換する ● 上糸調節ダイヤルで糸調子を弱める ○ 生地に合った糸を使用する ● 新しい糸に交換する	● P12 ○ P21 ● P15 ○ P17 ● —
下糸が切れる ボビンの糸が 引き出せない	○ 下糸のかけかたが間違っている ● ボビンケース周辺に糸くずやゴミが溜まっている ○ ボビンに糸が正しく巻かれていない ● 正規のボビンを使用していない ○ 糸が劣化している（絹糸や綿糸は劣化しやすい）	○ 下糸を正しくかけ直す ● 針板を外し、カマや送り歯をそうじする ○ 糸を正しく巻き直す ● 正規のボビン（樹脂）を使用する ○ 新しい糸に交換する	○ P11 ● P22 ○ P10 ● P11 ○ —
回転が重く 音大きい	● ボビンケース周辺に糸くずやゴミが溜まっている	● 針板を外し、カマや送り歯をそうじする	● P22
生地の裏が タオル状になる	○ 上糸のかけかたが間違っている ● 上糸の調子が弱過ぎる ○ 押えが下がっていない ● 糸が太過ぎる ○ カマの中が汚れている	○ 上糸を正しくかけ直す ● 上糸調節ダイヤルで糸調子を強める ○ 押え上げレバーを下げる ● 生地や針に合った糸を使用する ○ 針板を外し、カマのそうじする	○ P12 ● P15 ○ P8 ● P17 ○ P22
縫い目がとぶ	● 針の取り付けかたが間違っている ○ 針が曲がっているか、針先が欠けている ● 生地に対して針と糸が合っていない	● 正しく針を取り付ける ○ 新しい針に交換する ● 生地に合った針と糸を使用する	● P21 ○ P21 ● P17
生地がシワになる	○ 上糸、下糸のかけかたが間違っている ● 針先が欠けている ○ 上糸の調子が強過ぎる	○ 上糸、下糸を正しくかけ直す ● 新しい針に交換する ○ 上糸調節ダイヤルで糸調子を弱める	○ P11、12 ● P21 ○ P15

*これらの現象、原因以外の不具合はミシン内部の調整や部品の摩耗による交換または電気系統の故障が原因となっている可能性があります。ご購入店または下記の弊社サービスセンターまでご相談ください。

● サービス工場のご案内

株式会社 アックス ヤマザキ サービスセンター

平日 9:00 ~ 17:00

（土・日・祝祭日除く）

TEL : 0120-405-851

E-Mail : info@axeyamazaki.co.jp

携帯電話からご利用になれます。



お問い合わせのメール
フォームに移動します。

株式会社 アックス ヤマザキ 〒544-0022 大阪府大阪市生野区舍利寺 3-12-5

TEL06-6717-5851 FAX06-6741-7875 平日 9:00 ~ 17:00（土・日・祝祭日除く）

純正部品のご購入は、購入店またはサービスセンターにお申し込みください。

ご購入いただきましたミシンは、上記の専門工場で点検修理などのサービスを致します。

なお、サービスには有償と無償の場合がありますので、サービスセンターにお問い合わせの上、ご送付ください。

※修理、引っ越しなどの輸送にはご購入時のミシン箱と緩衝材（発泡スチロール）をご利用ください。

仕様

本体型式		MM-10 II	消費電力	9W
適用電源	アダプター	入力 AC100-240V 50/60Hz 0.3mA	使用針	家庭用ミシン針（HA×1）
		出力 DC6V 2.0A	本体寸法	幅：294mm 奥行き：115mm 高さ 265mm
	電池	単 3 形アルカリ電池× 4 本	重量	2.3kg

修理・保証サービス

● 修理サービスのご相談

- 1. このミシンのご購入者には、ご購入店から1年「無料修理保証書」が発行されます。内容をお確かめの上、大切に保存してください。
- 2. 修理サービスは無料保証期間内および期間経過後も原則としてご購入店が承りますので、ご相談ください。
- 3. 修理サービスについてお問い合わせやご不審のある場合は、ご購入店またはサービスセンターへお申しつけください。

● 無料修理保証期間後の修理サービス

- 1. 取扱説明書に基づいて、正しい使用とお手入れがされていれば、無料修理保証期間を経過しても修理用部品の供給可能期間中（ご購入の日から通常7年間）は、ご購入店を通じて有料で修理サービスをいたします。
ただし、次に該当する場合は、有料でも修理できない場合がありますので、ご購入店または弊社サービスセンターにご相談ください。
イ. 保存上の不備または、落下や誤使用により不調、故障または損傷したとき
ロ. 浸水、冠水、火災等、天災、地変により不調、故障または損傷したとき
ハ. ご購入後の移動または輸送によって不調、故障、損傷したとき
ニ. ご購入店または当社の指定する販売点あるいはサービス店以外で修理、分解、または改造したために不調、故障、損傷したとき
- 2. 長期間にわたってご使用されたミシンの精度の劣化は修理によって元どおりに修復できないことがあります。
- 3. 有料修理サービスの場合の費用は、別に定める必要部品代金、交通費および技術料金の合計額となります。

保証書

型式		MM-10 II		機械番号	ご購入後には ※印欄への記入の 有無をご確認ください。 記入がない時はご購入 日、またはお届け日が 証明できる伝票等を 添付してください。 本書は再発行 致しません。 紛失しないように 大切に保管して下さい。
※お買い上げ日		年	月	日	
※ お 客 様	ご住所	〒	-	TEL	-
	フリガナ ご氏名				
※ 販 売 店	住所	〒	-	TEL	-
	店名				

無料修理保証について

- 1. この取扱説明書・本体添付ラベルなどの注意書きに基づき正しい使用とお手入れがされ、保証期間中に故障した場合には、商品と本書をご持参・ご提示の上、お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。無料修理をさせていただきます。
 - 2. なお、保証期間中の修理などアフターサービスについてのご不明な点は、ご購入店または弊社サービスセンターにご相談ください。
 - 3. 次のような場合は、保証期間内であっても有料修理になります。
①保証書が提示されないとき ②保証書にお客様名・お買い上げ日・販売店の記入がないとき ③消耗部品の交換
④お買い上げ後の落下や輸送上の故障・損傷 ⑤ご使用後の傷、変色、よごれ及び保管上の不備による損傷
 - 4. また、次のような場合は有料でも修理ができないときがあります。ご購入店またはサービスセンターにご相談ください。
①保管上の不備または、まちがった使用での不調・故障または損傷 ②火災、塩害、ガス害、地震、風水害、落雷、異常電圧およびその他の天災地変による故障・損傷 ③お買い上げ後の落下や輸送上の故障・損傷 ④職業用としての無理なご使用による故障・損傷
⑤購入店または当社の指定する販売店 / サービス店以外での修理、分解や改造されたための故障・損傷
 - 5. 本書は、日本国内においてのみ有効です。 This Warranty is valid only in Japan.
 - 6. ご転居の場合は、事前にお買い上げの販売店にご相談ください。
 - 7. 贈答品などで本書記入してあるお買い上げ販売店に修理をご依頼できない場合は、弊社サービスセンターにご相談ください。
 - 8. 長期間にわたり、ご使用されたミシンの精度の劣化は元どおりに修復できないことがあります。
 - 9. 有料修理の場合は、別に定める必要部品代金、輸送費および技術料の合計となります。
- ※ この保証書は、本書により明示した期間、条件の下において無料修理をお約束するものです。
したがって、この保証書によりお客様の法律上権利を制限するものではありません。なお、ご不明な点はご購入店または弊社サービスセンターにお問い合わせください。

AXE YAMAZAKI

【保証責任者】 株式会社 アックス ヤマザキ
〒 544-0022 大阪府大阪市生野区舍利寺 3-12-5
TEL:06-6717-5851